

矢作川流域圏懇談会「第4回市民会議」開催報告

1. 実施概要

(1) 実施概要

- 実施日時：平成24年12月12日(水)
18:00～20:15
- 開催場所：
豊田市福祉センター4F 41会議室
- 参加者：30名

(2) 内容

【プログラム】

1. 座長あいさつ
2. 本日の進め方
3. 3ヶ年の活動総括(案)について
4. 話し合い
 - (1) 3ヶ年の活動総括と今後の運営方針
 - (2) 山・川・海部会の連携のあり方
5. 全体発表



山部会会議風景



川部会会議風景



海部会会議風景

2. 主な会議内容

第4回市民会議では、3ヶ年の活動総括と今後の運営方針及び山・川・海部会の連携のあり方についての意見交換を行った。話し合い結果をまとめたものを以下に示す。

- 山、川、海の意見交換を行うことによって、問題意識を共有でき、連携の必要性について改めて認識できた。
- 山部会から一緒に考えたいことの提案としては、懇談会自体のPR・定着する方法や土砂、木づかいなどが挙げられた。
- 川部会から一緒に考えたいことの提案としては、山、川、海の共通課題として、ごみと流木、土砂などの問題があり、まずはそれらの情報共有(勉強会)からできればよいという意見が挙げられた。
- 海部会から一緒に考えたいことの提案としては、海の恵みを保つために重要な上流から流れてきて欲しい住家をつくるための土砂(砂必要、土不要)やエサに係わること等を流域圏内で地産地消を図りながら皆で考えることが大切だとの意見が挙げられた。

3. 開催内容

(1) 座長あいさつ

市民会議座長である碓さくら氏よりご挨拶を頂いた。

(2) 本日の進め方

本日の進め方として、山・川・海のメンバーによるグループワークで行うことを事務局より説明した。

(3) 3ヶ年の活動総括（案）について

3ヶ年の活動総括について、市民会議の役員より報告を行った。



碓座長あいさつ

○山部会活動総括（黒田氏）

- ・ 山部会は3年前に始まった時に、山村の再生なくして山の再生はありえないというところから出発してきた。
- ・ 3年経って、山村の再生を目指して活動をしていく様々な事例を集めてみることで、多くのことが学べると考え、山村再生担い手づくり事例集を作成することとなった。また、山の再生については、山の森を再生するという、そのためには山の森が切られた後のことも考えなければいけないということで、森づくりのガイドライン、及び木づかいのガイドラインを作ろうというところまで到達した。
- ・ 到達する過程では、豊田、岡崎、根羽・平谷、恵南地区をモデル地域に選定して、ワーキングを続ける中で、多くの行政の人、森林組合の人、村にIターンしてきた人たちが仲間入りし、新たに懇談会に入りたいという人が幾人も出てきたというところに、自分たちが積み重ねてきたことの成果が出てきつつあると思う。
- ・ 来年度以降は、これに大きな果実をつけるよう発展させていきたいと思う。

○川部会活動総括（光岡氏）

- ・ 22年度は、上流から下流まで景色も異なる広い範囲であること、それぞれの地域で活動している参加者が持っている関心事が非常に多様なことから、課題も本川と支川、川とまちとして整理をするという段階で終了した。
- ・ 課題整理に向けての方向性が見えるきっかけとなったのが、23年9月の2日間にわたるバスツアーであった。豊橋河川事務所が行っている河道掘削、堤防整備、干潟・ヨシ原再生などの事業と連動した課題からまずやってみようということで、魚の棲みやすい川づくりをテーマとした上下流問題と、地先の課題としての河川空間の利用・保全のあり方の2つを設定し、課題の焦点化を目指した。
- ・ また、2つの課題についてモデル地区を設定し、現地を歩きながら課題を見つけて、できる取り組みから行っていこうとした。
- ・ 24年度は、現地を見た上で、具体的な話のできる検討会ができたと思っている。ピンポイント的な事柄や、相矛盾する解決方向への意見も出されたが、座長、副座長に教授を受けながら、自分たちの意見を系統的に意義あるものに位置づけをしてもらった。

- ・ さらに、各市町の行政の方々にも多くの参加を頂き、その時々貴重な資料やデータも提供して頂いた。
- ・ 現地の状況を見て、より具体的な事柄について話し合うことの意義は大変大きいと思っ
ているとともに、川部会の解決課題としての整理も少しずつついてきたと思う。

○海部会活動総括（井上氏）

- ・ 今日のテーブルの人数が示しているとおり、海はなかなか参加が難しい。
- ・ 山村はそれだけ危機感が大きいですが、海は何となく成り立っているので住民が別に困らない
というのが、何となく反映をしているのではないかと。
- ・ 昨日は勉強会では、矢作川河口部のアサリは、各地で産まれた赤ちゃんが湾全体を動きな
がら着底していくので、三河湾全体をよくしていかないと豊かな海にはならないというの
が結論であった。
- ・ 海では、全員が考えるということが、3年目で少し先が見えたかなと思う。
- ・ 3年目の中で一番大きかったのは漁協と話ができたこと。漁業の人は何が一番困っている
かということ、流木の被害が非常に多いことである。海部会でも、三重県の答志島の奈佐の
浜で行っている活動に参加しており、ゴミ・流木の問題を今後、漁協と一緒に取り組まな
くてはいけないことがようやく明らかになってきたのではないかと。
- ・ 青潮や赤潮などの課題についても情報提供をしていきたい。特に赤潮の問題は、森・里・
海の連携がないと前に進めない。そのため、来年度以降は、その辺りを森・里・海の連携
の形のひとつとしてしっかり見ていきたい。
- ・ また、矢作川の砂をどうするといった話題にも目を向けながら、次の3年間に向かってい
きたいと思う。

(4) 話し合い

話し合いのテーマとしては、3ヶ年の活動総括と今後の運
営方針として、課題解決に向けた提案や今後関わりたいこと、
他の部会の人と一緒に考えたいことを話し合った後、山・川・
海部会の連携のあり方について、意見交換を行った。

意見交換は、まず部会別に行い、その後に部会メンバーが
それぞれ混ざり合って、3グループで行った。

課題解決に向けた提案や今後関わりたいこと、他の部会
の人と一緒に考えたいことについては以下のような意見が出さ
れた。

1) 課題解決に向けての提案、今後関わりたいこと

○山部会

① 全般

- 山、水源・防災、住む、仕事の間をを支え、まわ
すしくみが必要。



会議風景（部会別）



会議風景（部会合同）

- 市民、行政、学識者で意識のギャップがあり、そこを埋めていくことが必要。
- 市民がさらに主体性を持ち、発揮できるよう努めたい。
- 山主にも関わらず山に興味がない人が多すぎるので、山主を対象とした森の健康診断を行ってほしい。不在所有者対策も必要である。
- 根羽村内に向けて、流域圏の広告宣伝活動をしていきたい。

② 山村再生担い手づくり事例集

- 山を守るには、やはり「人」が住んでいける条件を守っていくことが必要。
- 若者が住みついて、安定した生活（子育ても含む）をつくりあげていける、山仕事の堅実なあり方を考えていきたい。
- 黒田氏にリーダーシップをとってほしい。
- 作成を通じて人の輪を広げたい。

③ 森づくりガイドライン

- 山村再生を主とした森林再生は、人口減少対策であり、森林組合及び森林所有者との協働が必要。
- 将来に向けた森林資源のあり方について、実際に森林に深く関わる林業人として考えたい。
- 雨量や水位、土砂のデータについては提供したい。

④ 木づかいガイドライン

- 生き残ることがミッションであり、ガイドラインをつくりながら、自分たちの後を追う者の育成を行っていきたい。

○川部会

① 全般

- 各活動団体に呼びかけ、本川、家下川の現地調査や活動に参加してもらい、この懇談会の情報発信をしたい。
- 懇談会として成果をあげて、達成感を味わうことによって継続する。
- 本川モデルに必要な情報提供を行っていく。
- ダムの現状とこれからの展望を勉強したい。（情報の共有と問題点の解決に向けて）
- 市民団体との連携、サポートをしたい。

② 在来種・外来種

- 外来魚の駆除
- 外来種対策について、可能であれば、今後がかいぼり調査に協力していきたい。（ダム運用上問題がない時期）
- 在来種の現状調査への協力や外来種駆除の協力を行ないたい。

③ 生き物の移動阻害

- 魚の移動阻害をなくすため、調査と評価をし、関係諸団体へ提案する。
- 矢作川と家下川の合流点での魚の遡上の種類を確認する。
- アユの遡上・遡下に協力する。

④ 河床のアーマーコート化

- 河床のアーマーコート化について、可能な限り情報提供して、協力していきたい。

⑤ 川の微地形の多様性消失

- 良い瀬淵・ワンドについて、川の形状は整備が進むにつれて単調化し、瀬淵・ワンドが減少し縮小化し、生物の生息環境が単調、単一化しつつあるのではないかと。また、生息数の減少もあるのではないかと。

○海部会

① ゴミ、流木の調査

- 市民活動として、ごみを片付けていくことを進めていきたい。
- また、流域圏懇談会は、様々な人が入り産学官連携のような形にあるが、ごみ、流木清掃などには、産（地元企業等）にも入ってもらって対応を一緒に考えていきたい。

② 生き物調査など（海の豊かさ指標検討）

- 海の生産性をケイ藻の優先と考えると、ケイ素の相対的な不足についても常に意識していきたい。
- 三河湾のデッドゾーンについては水産試験場からも情報発信された問題であり、皆が同等程度の危機感を持つためにも情報発信をしていきたい。

③ 海と人の絆再生にも関わる流域連携

- 様々な立場の多くの方が、山、川、海は一体であることの認識を深めることが大切である。
- そのためには、こうした山、川、海地域の人達が交流しながらお互いが抱える問題を共有できる場で、一緒に考えていくことが重要である。

④ 干潟再生、ヨシ原再生

- 三河湾のアサリは、六条潟の稚貝が各地に供給され生産性を上げてきている。青潮発生時など六条潟の稚貝の大量へい死が起こると矢作川河口部干潟の稚貝が次の採捕地として非常に重要な意味を持っている。

2) 他の部会と一緒に考えたいこと

○山部会からの意見

① 全般

- この懇談会をメジャーにする方法。
- 問題共有の大枠をどうするか。
- 「流域」の思想をどう広め、定着するか。
- 土砂、水（水量、水質）、木づかい（都市市民）は連携できると思う。

② 山村再生担い手づくり事例集

- 山だけでなく、川、海の再生担い手事例集もつくりたい。

③ 森づくりガイドライン

- 森林再生と水質保全（土砂）について考えたい。

④ 木づかいガイドライン

- 川、海（まちも）の現場での流域材（原木、薪炭）使用を進めるにはどうしたらいいか。
- 木に親しむ場面、木を利用できる場を共に検討したい。
- 絆づくりのキックオフイベントとして、山、川、海をつなぐマラソン大会を実施したらどうか。
- チップ材や木工沈床にも活用してほしい。

⑤ その他

- 答志島には、どんな流木が流れているか。それは、どこから流れ出しているのか。（矢作川では明治用水頭首工下流の河畔や明治用水頭首工下流で合流する支流の河畔か）

○川部会からの意見

① 山・川・海に共通する問題

- 山・川・海の課題とその関連性について各部会で解決せず、しっかりした意見交換をし、問題点を共有する場を設けてはどうか。
- ダムの現状と今後の展望を情報共有しながら、ゴミ、流木、流量、水質などについてできることを探す。
- 森からの土砂・流木、川の流量など、土砂の問題とゴミを見れば、山・川・海がつながっていて、問題点が浮き彫りになる。
- 先生グループをつくり、もう少し科学的に理解しながらできるとよい。

② 土砂供給

- 山からの土砂の流出に関して、教えていただきたい。
- 河床のアーマーコート化に関する山からの土砂供給のあり方、対策の検討。（総合土砂管理委員会と情報共有が必要）
- 山からの土砂供給（大きな石）が川へ、どうしたらうまくできるのか？また、川から海へ、どうしたらうまく土砂が供給できるのか？

③ ゴミ

- 海のゴミ削減と連携

○海部会からの意見

① ゴミ

- 河川敷内の草木及びゴミを調査すること、片付けていくこと

① 海の生産性に係わる課題共有

- 海のパ生産性をケイ藻の優先と考えると、ケイ素の相対的な不足についても常に意識していきたい。その最も大きな解決策は森林、田畑の健全化だと思っている。ヘテロカプサ赤潮が出れば、二枚貝資源は消失する。間伐を進めること等は結果的に流木を減らし、濁水を減らすことになる。やや専門的になる話であるが、情報を共有していききたい。

② 海と人の絆再生にも関わる流域連携

- 干潟の重要性の理解を深めるためにも、海の恵みなど生産物の交流・流域内での地産地消を進めていききたい。

③ 土砂管理

- ダムの砂を以下に健全に流してもらうことができるかを一緒に考えたい。
- 上流のダムでの砂の様子、山の様子を実際に現地を見て、話を聞き体感することで問題の理解を深めたい。

(5) 全体発表

各テーブルの進行役より、各テーブルで出された意見について発表して頂いた。

○山部会発表（黒田氏）

- ・ とにかく山の人間が海や川のことをよく知ろう、川の人間は山や海のことをよく知ろう、海は山や川のことをよく知ろうということから始めよう。ここまできたら連携なしに話は進まないという共通認識で盛り上がった。
- ・ 具体的には、年に2回ぐらい山・川・海の連携で何か集まりを持とうということ、現場を見るのが一番であり、山のことを理解しようと思ったら、海や川のことを知らなければだめだ、お互いに知り合おうということをお話した。
- ・ その根底には、人間関係をもっと深めたいということがあったと思う。
- ・ 忌憚なく腹藏なく話し合い、問題点を掘り下げられるということ、参加者の皆さんが願っているということがよくわかった気がした。



全体発表（黒田氏）

○川部会発表（光岡氏）

- ・ 3つの部会の共通するところとしては、ゴミと流木と土砂の話があった。
- ・ それらのことを解決していくのに、例えばゴミなどを出さない、流木を出さないということもあるが、地産地消という解決方法もあるのではないかといい提案も出された。
- ・ これまで土砂の勉強会は行ってきたが、ゴミ・流木については、まだ勉強会を行っていないので、それらの発生源を話題とするような勉強会ができればいいという話も出た。
- ・ また、土砂が公共の財産だという声をもっと認識してほしいという話もあった。



全体発表（光岡氏）

- ・ 今後、ゴミ、流木、土砂3つの関係を通して、地産地消の観点から話ができるといいという話もあった。

○海部会発表（井上氏）

- ・ 黒田さんが言ったように、連携しかないというのが総括だと思う。山から言えば下流に木を使ってほしいということ。川はいろんな人がいるので、意見の集約を今後もきっちり続けていくというようなことだと思う。



全体発表（井上氏）

以上